

福島県文化財センター白河館

年報 2 0 1 5

～平成 2 6 年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

年報 2015 の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

2011年3月の東日本大震災から、早いもので、今年で5年目を迎えました。県内では、被災された方々のための公営復興住宅の建設も徐々に進んできており、ようやく復興に向けた動きが加速されつつあります。

まほろんにおきましても、震災後、「元気発信」を合い言葉に、福島県の復興の一助となるよう活動してまいりました。その結果、2014年（平成26年）度の入館者数は、震災後最も多い27,166名となり、震災前の入館者数に近づきつつあります。

最近、まほろんを訪れる子どもたちの表情が、皆、明るく生き生きとしており、震災当時と比べると、見違えるように元気になってまいりました。その姿を見て、ようやく震災前の状態に戻りつつあることを実感しております。

まほろんでは、2014年（平成26年）度からは、新たに「ふくしま復興展」を企画し、ふくしまの復興を促進するために、全国に向かって発信していくことといたしております。

第1年目の2014年（平成26年）度は、「発掘された大堀相馬焼」の企画展を開催し、江戸時代から明治時代にかけて双葉郡浪江町で生産された大堀相馬焼の当館収蔵資料と、原発事故の影響により避難先で製作を再開した窯元の作品を展示しました。

さらに、県内外の重要文化財をテーマとした「指定文化財展」では、「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」を開催し、福島県と青森県の重要文化財を比較する形で、それぞれの地域的な特徴と当時の地域間交流について紹介しました。

また、専門的調査研究として、当館収蔵の土器などに付着した炭化物を用いて、その年代を測定する放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析を、5ヵ年計画で開始しました。この測定・分析結果については、最終年度に研究報告書を作成する予定です。当館は、これからも見て・触れて・考え・学ぶ、体験型フィールドミュージアムとして、体験学習を重点に様々な活動に取り組んでまいります。

なお、まほろんは、2016年（平成28年）の7月で開館15周年を迎えることになりますので、来年は、記念事業を企画していきたいと考えております。

今後とも、皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



夏まつり古代3種競技表彰式



実技講座「家族で門松をつくろう」

目 次

第1章 まほろんの概要	
1 まほろんの業務	1
2 まほろんの沿革	1
3 平成26年度の主な行事	2
4 東日本大震災の影響	2
3. 活動内容	22
4. 受け入れ体制	22
9 その他	23
1. 年報2014の発行	23
2. 運営協議会の開催	23
3. 博物館学学外実習	23
4. 被災ミュージアム再興事業	23
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	
1 利用状況	3
1. 利用者数	3
2. 入館者数の内訳と傾向	3
2 維持管理に関する業務	5
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5
2. 施設・設備等の修繕状況	5
3. 備品・物品管理業務	5
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6
1. 収蔵資料	6
2. 資料貸し出し	6
3. 写真掲載等承認	6
4. 資料閲覧	7
4 文化財の活用に関する業務	8
1. 常設展示	8
2. 企画展示	10
3. 講演会等	14
4. 体験学習	15
5 文化財に関する情報発信	18
1. ホームページによる情報発信	18
2. データベースによる情報提供	18
3. まほろん通信の発行	19
6 文化財に関する研修事業	20
1. 研修実施の概要	20
2. 研修実施状況	20
7 文化財の活用に関する調査研究	21
1. 放射性炭素年代測定	21
2. 研究紀要	22
8 ボランティアの運営	22
1. 募集	22
2. 登録	22
第3章 平成26年度の組織と管理運営費	
1 組織	24
2 管理運営費	24
第4章 まほろん施設の概要	25
第5章 まほろんの条例・規則	
1 福島県文化財センター白河館条例	27
2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	27
まほろんの利用案内	28

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成26年7月には開館して13年が経過した。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真や図面などの資料を収蔵・管理し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで財団法人福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興財団（平成24年10月に名称変更）が管理業務を行った。

平成26年度から平成30年度まで（第3期）は、公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理者として管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財の講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは、貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、見て・触れて・考え・学ぶ体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人に

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人に

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4

月30日まで臨時休館
 平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任
 平成23年5月1日
 震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外施設を除き、再開館
 平成24年4月15日
 野外展示施設修繕完了、公開を再開
 平成24年5月3日
 一般収蔵庫修繕完了、公開を再開
 平成24年5月19日
 開館10周年記念事業を実施
 平成26年2月8日
 開館からの累計入館者数が40万人に

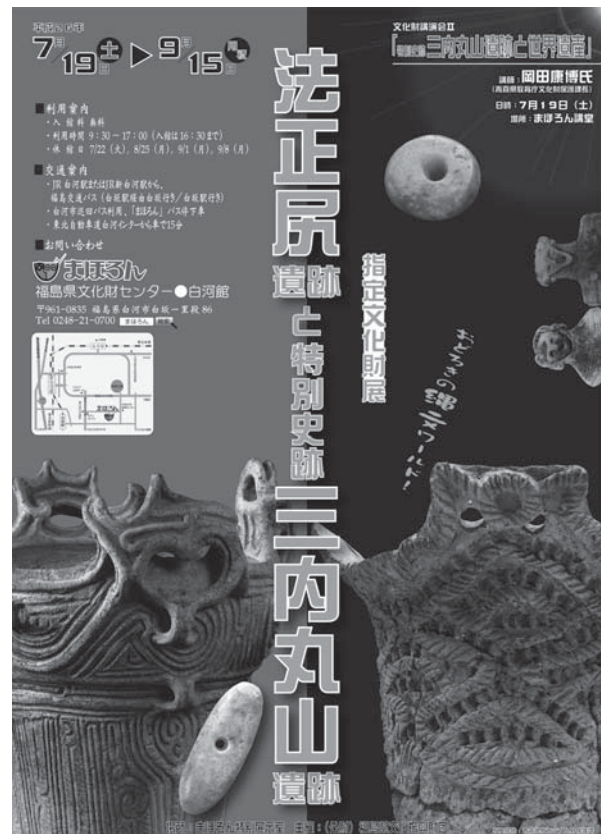
3 平成26年度の主な行事

平成26年4月26日～6月29日
 ふくしま復興展「発掘された大堀相馬焼」
 平成26年5月3日～6日
 GWまほろんまつり
 平成26年7月19日～9月15日
 指定文化財展「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」
 平成26年7月27日 まほろん夏まつり
 平成26年8月8日～9月23日
 まほろん移動展「発掘された大堀相馬焼」
 (福島県立図書館)
 平成26年9月13日～15日 まほろんを描こう
 平成26年10月4日～平成27年1月12日
 被災文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」



GWまほろんまつり

平成26年11月3日 まほろん秋まつり
 平成26年12月7日 まほろんもちつき大会
 平成27年1月18日 第11回双六大会
 平成27年2月7日～3月31日
 収蔵資料展「磐越自動車道の遺跡―会津盆地の弥生時代―」
 平成27年2月15日 まほろん冬まつり



「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」ポスター

4 東日本大震災の影響

平成24年度に実施した体験広場の除染工事に続き、その他の部分の除染工事が、福島県によって行われた。

また、福島県教育委員会は、福島県被災文化財等救援本部・被災市町村・国関係機関などによって救出された浜通り地方の文化財を保存するため、温湿度条件の安定する仮保管施設をまほろんの敷地内に設置している。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成26年度の総利用者数は、29,910名（平成25年度32,195名）で、前年度に比べ2,285名の減少となった。入館者数は、27,166名（平成25年度27,127名）、館外利用者数は、2,744名（平成25年度 5,068名）であった。

入館者数については、平成25年度から39名増加し、ほぼ前年度と同様の入館者数であった。ゴールデンウィーク期間や季節毎のイベント開催、また、学校の夏季休業期には休館日を設けずに開館するなどの運営を行った。

館外利用については、県内の学校等に職員が出かけて、その地域の歴史などを学ぶ「おでかけまほろん」を45校で行い、公民館で学ぶ親子を対象とした「まほろん出前講座」、生涯学習施設で開催する「まるごとまほろん」は、各々5箇所で行った。これらの人数は2,274名となり、前年度から654名減少した。

これに加え、福島県立図書館との連携事業で行った、まほろん移動展「発掘された大堀相馬焼」の入館者数を把握することが困難であったため、館外利用者の総数が、前年度に比べ、2,324名と大幅に減少する結果となった。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、27,166名（平成25年度27,127名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が23,700名で87.2%（25年度87.2%）、県外が3,466名で12.8%（25年度12.8%）と、前年度と同じ傾向であった。

県内の入館者のうち、白河市内からの入館者は9,572名で35.2%（25年度36.6%）で、前年度と概ね同じ傾向であった。

（2）年齢別利用状況

幼児・小中・高校生が10,498名で、入館者全体の38.6%（25年度41.7%）、一般の入館者数は16,668名で、入館者全体の61.4%（25年度58.3%）となり、一般の入館者の割合が増加した。

月別入館者数

	平成26年度							平成25年度	
	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者合計	館外利用者数	入館者合計	館外利用者数
4月	26	88	1,000	3	1,398	2,489	321	1,883	152
5月	27	252	1,301	51	2,136	3,740	295	3,714	543
6月	25	248	1,529	7	1,578	3,362	237	3,024	263
7月	28	132	1,631	16	1,480	3,259	139	2,807	129
8月	30	196	652	46	1,802	2,696	94	2,551	163
9月	25	71	666	4	1,369	2,110	394	2,130	1,009
10月	27	78	746	1	1,716	2,541	630	2,137	1,063
11月	26	161	421	41	1,225	1,848	457	2,159	1,021
12月	23	88	145	7	905	1,145	67	2,545	549
1月	23	36	249	24	809	1,118	44	1,955	176
2月	23	112	294	11	1,111	1,528	38	957	0
3月	26	76	101	14	1,139	1,330	28	1,265	0
合計	309日	1,538人	8,735人	225人	16,668人	27,166人	2,744人	27,127人	5,068人

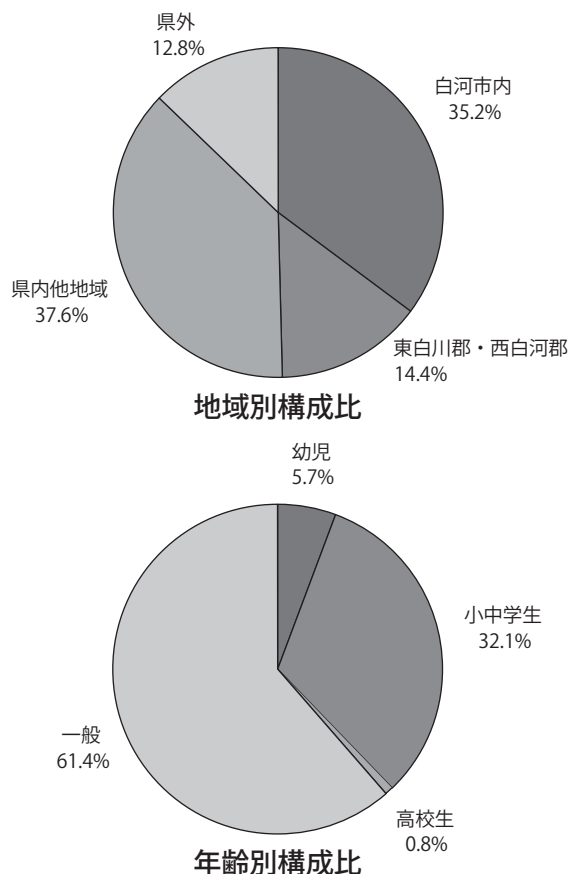
(3) 団体利用状況

入館した団体数は270団体（25年度は258団体）、団体による来館者数は10,358名（25年度8,996名）となり、前年度より1,362名増加した。

団体利用のうち、学校関係は6,715名（25年度6,400名）で、前年度に比べ、315名増加した。特に小学校は、過去最高を記録した24年度の104団体と同数であった。

これは、福島県教育委員会が実施する「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」や、学校訪問などの成果が現れていると考えられる。

また、平成26年度の特徴としては、視察などのため「行政機関関係」の団体利用が多かったこと、また、「その他」に分類する団体のうち、近隣の温泉施設などが観光客を引率して来館する団体数が増加したこと、企業研修での利用が多かったことなどがあげられる。



団体利用者一覧

団 体			平成26年度														平成25年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1	3	1										6	8
		来館者数		23	164	27				31						245	311
	小学校	学校数	12	17	26	16	2	11	10	2	1	6	1		104	100	
		来館者数	738	776	1,382	1,008	117	471	658	85	26	193	49		5,503	5,139	
	中学校	学校数	2	1		1									4	4	
		来館者数	130	30		60									220	102	
	高等学校	学校数		1						2					3	5	
		来館者数		29						61					90	131	
	養護学校	学校数						1				1			2	0	
		来館者数						10				28			38	0	
	大学	学校数				1				1					2	6	
		来館者数				9				13					22	113	
生涯学習関係	幼小中高PTA (保護者のみ)	学校数												0	0		
		来館者数													0	0	
	幼小中高PTA (親子レク等)	学校数			3	1	1	1	1	1				8	13		
		来館者数			182	33	92	86	76	128				597	604		
	研究会	会数		2	1		1	1						5	0		
		来館者数			74	29		25	121					249	0		
	子ども会	会数				4	1	1						6	7		
		来館者数				171	23	19						213	202		
	公民館等	館数	2		3	3		1	1	2	1		2	1	16	19	
		来館者数	38		58	76		38	5	42	11		65	8	341	433	
	社会福祉関係	福祉施設・デイケアサービス	団体数	2	4	6		1	2	5	2			1	23	37	
			来館者数	34	55	109		20	26	87	32			43	406	564	
文化団体関係	資料館等	館数					1		1					1	3	2	
		来館者数					35		9					32	76	49	
	歴史研究	団体数	1				2		1	1					5	12	
		来館者数	20				30		28	9				87	317		
行政機関関係	県・市町村・教委・審議会等	団体数	1	1		1	2	1		2	1	1		1	11	4	
		来館者数	67	180		42	82	35		29	18	6		10	469	152	
その他	その他	団体数	5	4	7	7	3	12	14	7	4	1	4	4	72	41	
		来館者数	207	55	142	214	70	172	471	109	118	26	138	80	1,802	879	
合計	団体数		25	29	50	36	13	31	35	20	7	9	7	8	270	258	
	団体来館者数		1,234	1,148	2,111	1,669	469	882	1,486	508	173	253	252	173	10,358	8,996	
	総来館者数		2,489	3,740	3,362	3,259	2,696	2,110	2,541	1,848	1,145	1,118	1,528	1,330	27,166	27,127	
	団体利用者の割合(%)		49.58%	30.70%	62.79%	51.21%	17.40%	41.80%	58.48%	27.49%	15.11%	22.63%	16.49%	13.01%	38.13%	33.16%	

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務／常光サービス(株)
- (2) 消防設備保守点検業務
／車田電気工業(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
／(株)ハイン
- (4) 自動ドア保全業務
／(株)明成エンジニアリング
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
／(財)東北電気保安協会
- (6) 展示用及び講堂用AV機器保守点検業務
／(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務
／(有)西牧植園
- (8) 清掃業務／(株)タイセークリーン
- (9) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (10) 電話設備等点検業務／(株)ユニテック
- (11) 除雪業務／(有)猪越土木

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成26年5月26日
特別展示室目隠し扉修繕
- (2) 平成26年7月16日
特別別展示室内展示ケース修繕
- (3) 平成26年7月30日
A Dバン修繕
- (4) 平成26年7月31日
「ふくしまの文化財」プロジェクター修繕
- (5) 平成26年8月9日
電話交換機修繕
- (6) 平成26年10月24日
屋根修繕
- (7) 平成26年12月26日
特別収蔵庫燻蒸排気ファン修繕
- (8) 平成26年12月26日
ガスヒートポンプ式エアコン室外機保全
- (9) 平成26年12月26日
野外展示物説明版修繕

- (10) 平成26年12月27日
野外展示物平安時代の製鉄炉修繕
- (11) 平成27年1月17日
特別展示室壁面展示ケース修繕
- (12) 平成27年3月20日
野外展示物前方後円墳及び室町時代の館修繕
- (13) 平成27年3月25日
遺跡地図管理システム修繕
- (14) 平成27年3月25日
電話設備修繕
- (15) 平成27年3月25日
空調室外機保全
- (16) 平成27年3月25日
空調室内機フィルター取替修繕



遺跡地図管理システム

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合 計
一般収蔵庫	44,203	3,073	1,067	520	10	48,873
特別収蔵庫	518					518
合計	44,721	3,073	1,067	520	10	49,391

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平26.4.1 ～平27.3.31	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（常設展示）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平26.4.1 ～平27.3.31	独立行政法人国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
平26.4.1 ～平27.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所	南相馬市鳥打沢A遺跡出土土師器ほか	24
平26.4.1 ～平27.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平26.4.1 ～平26.12.3	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	31
平26.4.1 ～平27.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平26.4.1 ～平27.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,478
平26.4.1 ～平26.5.28	福島県立博物館（「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」）	大熊町上平A遺跡出土縄文土器ほか	55
平26.4.10 ～平27.3.31	福島県立博物館（「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」）	富岡町上本町F遺跡かわらけほか	77
平26.7.9 ～平27.3.31	白河市歴史民俗資料館（常設展示「白河の歴史と文化」）	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
平26.8.7 ～平26.10.2	福島県立図書館（まほろん移動展「共催」発掘された大堀相馬焼）	浪江町中平遺跡出土陶器ほか	46
平26.8.27 ～平27.3.31	福島県立博物館（常設展ポイント展「王様の玉飾り」・「約束の音色～聖武と砦麻呂」）	会津若松市駒板新田横穴群出土勾玉、玉川村江平遺跡出土土師器ほか	134
平26.9.25 ～平26.11.14	長岡市馬高縄文館（秋季特別展「火炎系土器と火炎土器」）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	4
平26.12.16 ～平27.1.22	公益財団法人福島県文化振興財団（歴史再発見事業「ふくしまの復興ー記憶をつなぐー」）	楡葉町大谷上ノ原遺跡出土旧石器ほか	123
平27.3.27 ～平27.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	31
		合 計	2,025

(2) 模型及びレプリカ

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平26.4.1 ～平27.3.31	福島県立博物館（常設展示）	梵鐘復元品ほか	10
平26.4.1 ～平27.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」）	磐梯町法正尻遺跡復元地形模型ほか	11
平26.8.27 ～平27.3.31	福島県立博物館（常設展ポイント展「約束の音色～聖武と砦麻呂」）	玉川村江平遺跡出土木簡複製品、横笛復元品	2
平27.3.13 ～平27.3.17	会津若松市教育委員会（大塚山古墳出土品活用事業（講話「大塚山古墳の謎をとく」）	三角縁神獣鏡復元品	1
		合 計	24

3. 写真掲載等承認

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平26.4.7	株式会社山川出版社（『詳説日本史』文部科学省検定済教科書の電子機器対応版）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1
平26.4.7	福島県立博物館（テーマ展「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」展示パネル）	富岡町上本町C遺跡全景写真ほか	16
平26.4.7	南相馬市教育委員会（『鹿島町史』1 通史編）	新地町三貫地遺跡出土旧石器写真ほか	3
平26.4.8	株式会社ニューサイエンス社（考古調査ハンドブックシリーズ『古墳の見方』）	金銅製双魚佩写真（『研究紀要2001』掲載写真）	2
平26.4.14	相馬市教育委員会（相馬市歴史資料収蔵館常設展「稲作のはじまり」展示パネル）	相馬市大森A遺跡Ⅴ区Ⅳa層水田写真	1

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平26.4.21	株式会社NHKエンタープライズ（歴史秘話ヒストリア「愛の武将 美しき絆」CATV局番組提供）	会津若松市神指城跡内堀跡・石垣跡写真	2
平26.5.13	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（企画展「掘りdayはちのへ」解説パネル）	常設展示「飾られた馬」写真	1
平26.6.4	株式会社インテリジェント・リンク（「第52回日本癌治療学会学術集会」福島県の歴史・文化PR映像）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真ほか	2
平26.6.12	田中 敏（『福島の進路』384「第3回福島県の遺跡(3)弥生時代」とうほう地域総合研究所）	会津若松市一ノ堰B遺跡土坑墓群写真ほか	5
平26.6.16	株式会社セブンクリエイティブ（『はじめての土偶』世界文化社）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	2
平26.7.7	白河市歴史民俗資料館（平常展示「白河の歴史と文化」展示解説パネル）	白河市一里段A遺跡全景写真ほか	12
平26.7.7	福島県立博物館（常設展ポイント展「これも弥生土器!?」福島県立博物館ホームページ広報）	会津坂下町能登遺跡出土弥生土器写真	6
平26.7.22	株式会社インテリジェント・リンク（「第52回日本癌治療学会学術集会」福島県の歴史・文化PR映像）	会津若松市一ノ堰B遺跡出土弥生土器写真	2
平26.8.21	蓮田市教育委員会（『災害と蓮田—太古から様々な災害と向き合った人々—』展示図録）	相馬市段ノ原B遺跡地割れ痕跡全景写真ほか	3
平26.9.5	合同会社浩然社（『ビジュアルワイド図解 日本の合戦』西東社）	軍団兵士模型写真	1
平26.9.5	長岡市馬高縄文館（秋季特別展「火炎系土器と火炎土器」チラシ・リーフレット）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器写真ほか	7
平26.9.24	蓮田市教育委員会（『災害と蓮田—太古から様々な災害と向き合った人々—』ポスター）	相馬市段ノ原B遺跡地割れ痕跡全景写真	1
平26.10.30	株式会社ジャストシステム（中学生向け通信教育『スマイルゼミ』）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器、会津坂下町能登遺跡出土弥生土器写真	2
平26.11.19	一般財団法人福島県教育会館（2015年版『夏休みの友』Ⅰ）	野外展示「縄文時代の家」写真	1
平26.11.25	朝日新聞出版（朝日ジュニアシリーズ『週刊マンガ日本史』4号）	野外展示「奈良時代の家」写真	1
平26.11.28	株式会社浜島書店（『福島県 地域の歴史を調べよう』）	泉崎村関和久遺跡2号建物跡全景写真ほか	2
平26.12.5	公益財団法人福島県文化振興財団（企画展「ふくしまの復興—記憶をつなぐ—」展示パネル）	大熊町上平A遺跡全景写真ほか	20
平26.12.18	株式会社光文書院（『社会科資料集6年』）	弥生時代の復元鍬写真	1
平27.1.26	ガッチ株式会社（ガッチ株式会社ホームページ）	浪江町中平遺跡出土陶器写真ほか	3
平27.2.9	朝日新聞出版（朝日ジュニアシリーズ『週刊マンガ日本史』10号）	軍団兵士模型写真	1
平27.2.27	松江市歴史まちづくり部（『松江市史 通史編』「自然環境・原始・古代」）	「弩」復元模型写真	1
平27.2.27	奈良大学博物館（企画展「発掘された古代国家」展示パネル・図録）	鉄づくりイイベント風景写真	1
平27.3.24	相馬市教育委員会（『相馬市史』4資料編Ⅰ）	相馬市古川尻A遺跡出土遺物写真ほか	1,324
		合計	1,424

4. 資料閲覧

（1）遺 物

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平26.6.14	県外研究者（調査研究）	石川町一斗内遺跡出土縄文土器	81
平26.6.29	南相馬市教育委員会職員（調査研究）	泉崎村関和久上町遺跡出土瓦ほか	117
平26.9.4	東北芸術工科大学（調査研究）	会津美里町塩喰岩陰遺跡出土縄文土器ほか	161
平27.1.10	県外研究者（調査研究）	西会津町下谷ヶ地平C遺跡出土縄文土器	195
平27.2.7	県外研究者（調査研究）	三春町越田和遺跡出土縄文土器ほか	513
平27.3.5	新潟大学（調査研究）	本宮町高木遺跡出土縄文土器ほか	158
平27.3.13	地底の森ミュージアム（企画展の事前調査）	檜葉町大谷上ノ原遺跡出土旧石器	19
平27.3.18	奥会津博物館（企画展の事前調査）	下郷町南倉沢遺跡出土縄文土器ほか	14
		合計	1,258

（2）その他

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平26.12.16	県外研究者（調査研究）	古代製鉄炉復元実験生成物など	5
平27.1.24	会津若松市教育委員会（体験教室用教材の調査）	三角縁神獣鏡復元品など	3
		合計	8

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」(がんばろう！浜通り！)
- ②「探してみよう福島文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉

- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」
- ⑨映像展示

「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え

平成26年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、来館者に白河地方の文化財を親しんでもらうため、さらに地域の生涯学習関係者と連携して、各市町村の発掘調査資料を中心に、話題性や地域性のある資料を積極的に掘り起こし、フレキシブルな展示を企画している。本年度は、3遺跡について紹介した。

常設展示替え一覧

コ ー ナ ー	タ イ ト ル	開 催 期 間	所有者	備 考
みんなの研究ひろば	1 ミニ文化財復興展 「富岡町・双葉町・大熊町」報告	平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	富岡町・大熊町・双葉町	3回の展示替え
	2 学芸員実習の成果(1)	平成26年4月1日～ 平成26年9月26日	館 蔵	平成25年度からの継続、郡山市正直A遺跡
	学芸員実習の成果(2)	平成26年9月27日～ 平成27年3月31日	館 蔵	玉川村栗木内遺跡
話題の遺跡	1 南相馬市萩原遺跡(1)	平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	館 蔵	
	玉川村栗木内遺跡	平成26年7月1日～ 平成26年12月27日	館 蔵	
	南相馬市萩原遺跡(2)	平成26年1月6日～ 平成27年3月31日	館 蔵	
	2 湯川村桜町遺跡(1)	平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	館 蔵	
	玉川村栗木内遺跡	平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	館 蔵	復元研究の成果(八稜鏡)
	湯川村桜町遺跡(2)	平成26年10月1日～ 平成27年3月31日	館 蔵	
しらかわ 歴史名場面	白河市谷地前C遺跡	平成26年4月1日～ 平成26年7月25日	館 蔵	
	石川町大池下遺跡	平成26年7月26日～ 平成26年12月27日	館 蔵	
	白河市関林A遺跡	平成27年1月6日～ 平成27年3月31日	館 蔵	
プロムナードギャラリー 『ふくしまの宝物』	浪江町田子平遺跡	平成26年4月1日～ 平成26年7月1日	館 蔵	
	喜多方市高堂太遺跡	平成26年7月2日～ 平成27年3月10日	館 蔵	
	石川町大日原C遺跡	平成27年3月11日～ 平成27年3月31日	館 蔵	
プロムナードギャラリー 『がんばろう！浜通り！』	浪江町田子平遺跡 (毎月展示替え)	平成26年4月1日～ 平成27年3月31日	館 蔵	平成23年度からの継続。浜通り地方の土器を展示して復興を祈願。

◆白河市谷地前C遺跡

白河市（旧東村）に所在する旧石器・奈良・平安時代の遺跡で、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されている。数多くの土師器や須恵器は、平安時代を代表する出土品である。竪穴住居跡から出土した代表的な土師器・須恵器をわかりやすく展示した。

◆石川町大池下遺跡

古代白河郡内のひとつ石川町に所在する縄文から平安時代の集落遺跡で、竪穴住居跡が発見されている。県内でも調査例の少ない古墳時代前期の出土品を展示した。

◆白河市関林A遺跡

白河市（旧東村）に所在する奈良・平安時代の集落遺跡で、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されている。県内でも集落内から出土例の少ない丸瓦や平瓦、周辺地区の代表的な土師器などの出土品を展示した。

2) みんなの研究広場

「みんなの研究広場」は、一般県民の歴史や文化財等に関する研究を積極的に紹介することで、県民と歴史・文化財等が近い存在であることを印象付ける特徴的コーナーであり、児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示する。

◆学芸員実習の成果品

例年、9月に実施している博物館実習の成果として、実習生によるミニ展示を行った。

◆ミニ文化財復興展

福島県文化財センター白河館が実施している被災ミュージアム再興事業の一環として、整理・確認作業の終了した富岡町・大熊町・双葉町の資料を展示し、3回の展示替えを行った。



ミニ文化財復興展

3) 話題の遺跡

県内の文化財情報を積極的に収集し、話題性に富んだ新鮮な展示を行う。特に企画展の展示内容と関連する遺跡を紹介し、展示室総体が連携するように努めると共に、関係する自治体や生涯学習施設と連携して進めている。

◆南相馬市萩原遺跡

浜通り地域の旧石器時代・縄文時代早期・平安時代の集落遺跡で、県内でも最古級の土偶や旧石器などの出土品を替えて、2回展示した。

◆湯川村桜町遺跡

会津地域の弥生時代後期の遺跡で、同地域から初めて発見された木製品（高床建物の部材や農耕具・井戸杵）や地域間交流（北陸・北関東系など）を物語る代表的な出土品を替えて、2回展示した。

◆栗木内遺跡

中通り地域の玉川村に所在し、古墳時代から奈良・平安時代の遺跡である。特に、古墳時代中期の竪穴住居跡からは数多くの土師器が出土している。

併せて、平安時代の竪穴住居跡から出土した和鏡の復元研究の成果を展示した。

4) 「ふくしまの宝物」

まほろんに所蔵されている出土品の中から、学芸員が紹介する「ふくしまの宝物」である。当館学芸員が交代で、1年間に3回展示替えを行った。

(3) 展示資料の破損等

◆常設展示

来館者の接触によると考えられる展示物（レプリカ）の軽微な破損が見られた。

◆野外展示

経年劣化による展示造形物の床・壁・柱などに生じた隙間やひび割れなどが、増加・拡大している。

(4) メンテナンス

破損した常設・屋外展示資料のうち、特に軽微な部分について、展示担当の学芸員が修繕を行った。

また、専門業者に依頼した修繕の箇所及び方法は、以下のとおり。

◆前方後円墳

石室入口の壁面崩壊を防止するため、修繕を行った。

◆平安時代の製鉄炉

床面の整地と炉体側壁貼り付け修繕を行った。

◆室町時代の館

空堀法面の流失防止のため、吹き付けを行った。

2. 企画展示

(1) ふくしま復興展

「発掘された大堀相馬焼」

会 期:平成26年 4月26日(土)～6月29日(日)

(開催日数56日間)

観覧者数:7,480人

1) 趣旨

福島県の各地域に根付いた個性豊かな文化を広く県民に紹介し、全国へ発信することを目的とする「ふくしま復興展」として、大堀相馬焼を取り上げた。大堀相馬焼は浪江町大堀地区を中心に江戸時代から生産されてきた伝統工芸品であり、本展示ではとくに福島県教育委員会が行った浪江町中平遺跡・後田A遺跡・仲禅寺遺跡の発掘調査の成果を基に、江戸時代から明治・大正時代頃にかけての製品や技術を中心に紹介した。

2) 展示の構成と内容

①大堀相馬焼の歴史

大堀相馬焼の代表的な技法や特徴的な製品に注目し、その歴史を概観した。

②大堀相馬焼の発掘調査成果から中平遺跡・後田A遺跡・仲禅寺遺跡の概要と主な出土資料の展示とおして、各遺跡の特徴について紹介した。

③現代の大堀相馬焼

大堀相馬焼協同組合から借用した現代の製品を展示し、江戸時代から明治・大正時代頃にかけての製品との違いを紹介した。

3) 関連事業

6月14日(土)に、関根達人氏(弘前大学人文学部教授)による文化財講演会「近世大堀相馬焼の編年と流通」を開催した。

また、8月8日(金)～9月23日(火)に、福島県立図書館エントランス展示コーナーにて移動展(県立図書館と共催)を行った。

4) 成果と反省

原発事故により大きな被害を受けた大堀相馬焼について、往時の姿と現状を紹介することができた。来館者のなかには、浪江町から避難中の方や大堀相馬焼の窯元もあり、懐かしげに観覧する様子が印象的であった。



「発掘された大堀相馬焼」ポスター

(2) 指定文化財展

「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」

会 期:平成26年 7月19日(土)～9月15日(月)

(開催日数55日間)

観覧者数:5,437名

1) 趣旨

平成21年に国重要文化財に一括指定を受けた磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡の出土資料を、青森県三内丸山遺跡出土資料と対比をしながら紹介する「指定文化財展」である。

縄文時代中期中葉の代表的な遺跡である北東北の特別史跡三内丸山遺跡(青森県)と南東北の法正尻遺跡(福島県)は、それぞれの地域の特徴をよく表している遺跡である。個々の文化・伝統を守りながらも、他地域の文化をいかに受容して自分たちの暮らしに取り入れていったのかを、法正尻遺跡と三内丸山遺跡の2つの遺跡を比較しながら理解できる展示内容とした。

2) 展示の構成と内容

①縄文時代中期の世界

定住化が進み、大規模なムラを形成していった縄文時代中期の世界の概要を解説した。

②山のムラ 海のムラ

法正尻遺跡と三内丸山遺跡の立地を通して、それぞれのムラの特徴をパネル展示で紹介した。

③縄文ネットワーク

2つの遺跡から出土する石製品を展示した。これら石製品の原材料であるヒスイ・コハク・黒曜石などの石材の原産地から、遠方との交易状況を展示した。

④石の道具 土の道具

法正尻遺跡と三内丸山遺跡の石製品や土偶などを並列展示した。

⑤南の土器と北の土器

東北地方で異なった2つの文化圏で使用されていた法正尻遺跡と三内丸山遺跡出土の縄文土器を並列展示した。

⑥遺跡の今

現在の遺跡の状況を写真パネルで紹介した。

3) 関連文化財講演会

7月19日(土)に、青森県教育庁参事兼文化財保護課長である岡田康博氏による文化財講演会「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」を開催した。

4) 成果と反省

法正尻遺跡と三内丸山遺跡の出土品を並列展示することで、類似点や相違点などを一般来館者にも分かりやすい展示を心がけた。



「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」

(3) 被災文化財復興展

「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」

会 期:平成26年10月4日(土)～平成27年1月12日(月) (開催日数80日間)

観覧者数:5,468名

1) 趣旨

本企画展は、東日本大震災と原子力災害によって被災した双葉町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・富岡町歴史民俗資料館から救出された文化財を公開展示するため、「救出された双葉郡の文化財」の第3回目として開催したものである。

今回は、各資料館から救出され、福島県文化財センター白河館の仮保管施設で保管されている文化財の一部を、「くらしと生業」、「歴史と遺産」、「記憶と記録」の3つのテーマに分けて展示し、世代を超えて受け継がれてきた3町の歴史と伝統を紹介した。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②くらしと生業

「双葉ダルマ市」のために地元で製作されたダルマや、かつての町場の賑わいを伝える商店の「引き札」、その他の商業用具と流通の記録、養蚕用具や漁具などの生業用具など、この地域のくらしと生業の移り変わりを知るための資料を中心に展示した。

③歴史と遺産

双葉町の国指定史跡・清戸迫横穴出土品や、同じく双葉町の郡山五番遺跡と富岡町の小浜代



「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」

遺跡から出土した寺院・官衙の瓦などの考古資料を通して、原始・古代における双葉郡の歴史の一端を紹介した。

④記憶と記録

ムラの重要な事柄を記した区有文書や、個人の事績を伝える算額、その他の史料、写真など、各時代における地域の「記録」として重要な資料を展示した。

また、東日本大震災と原子力災害により住民が長期間の避難を強いられている中で、この地域の「記憶」と「記録」を、後世にどう残し、伝えていくかの問いかけとして、被災前の暮らしや風景の写真をパネル展示した。

⑤エピソード

3) 関連文化財講演会

11月8日(土)には、文化財講演会「ふるさとを守るためにー陸前高田市における文化財レスキューー」を開催した。

「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」展示資料一覧

番号	資料名	時代	所有者	備考
1	徳 利	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	「長塚町」
2	徳 利	近～現代	大熊町民俗伝承館	「大野駅前」
3	徳 利	近～現代	富岡町歴史民俗資料館	「夜ノ森」
4	徳 利	近～現代	富岡町歴史民俗資料館	「富岡 叶 五升入」
5	酒 樽 (陶製)	近～現代	大熊町民俗伝承館	「都菊」「上落合小西酒店」
6	引 札 (複製)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	「新山町 加村菓子店」
7	菓子型 (大鯛)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
8	菓子型 (小鯛)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
9	菓子型 (鯉)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
10	菓子型 (海老)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
11	菓子型 (富士山)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
12	菓子型 (松竹梅)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
13	菓子型 (梅)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
14	菓子型 (楓)	近～現代	双葉町歴史民俗資料館	
15	五ッ玉算盤	近代	富岡町歴史民俗資料館	
16	五ッ玉算盤	近代	富岡町歴史民俗資料館	
17	天秤ばかり	近代	富岡町歴史民俗資料館	
18	天秤ばかり	近代	富岡町歴史民俗資料館	
19	醤油搾り機	近代	大熊町民俗伝承館	
20	渡辺家文書	近代	双葉町歴史民俗資料館	「明治15年通運取扱帳」
21	双葉ダルマ	現代	双葉町歴史民俗資料館	双葉町マーク
22	双葉ダルマ	現代	双葉町歴史民俗資料館	双葉町マーク
23	双葉ダルマ	現代	双葉町歴史民俗資料館	双葉町マーク
24	双葉ダルマ	現代	双葉町歴史民俗資料館	青顔
25	双葉ダルマ	現代	双葉町歴史民俗資料館	青顔
26	土 鍾	縄文	大熊町民俗伝承館	道平遺跡出土品
27	土 鍾	縄文	大熊町民俗伝承館	道平遺跡出土品
28	土 鍾	縄文	大熊町民俗伝承館	道平遺跡出土品
29	骨角器 (モリ)	縄文	双葉町歴史民俗資料館	参考出品 (寺脇貝塚)
30	骨角器 (モリ)	縄文	双葉町歴史民俗資料館	参考出品 (寺脇貝塚)
31	骨角器 (釣針)	縄文	双葉町歴史民俗資料館	参考出品 (寺脇貝塚)
32	貝・魚骨	縄文	双葉町歴史民俗資料館	郡山貝塚出土品
33	釣針一式	現代	富岡町歴史民俗資料館	
34	漁具 (ヤス)	現代	大熊町民俗伝承館	
35	漁具 (たたき棒)	現代	大熊町民俗伝承館	

4) 成果と反省

3町の歴史や文化財について観覧者に知ってもらうため、3つのテーマに基づいて展示資料を配置した。また、地名入りの3町の航空写真や被災前の風景写真などもパネル展示し、この地域の長い歴史と伝統、人々の暮らしの営みを、出来るだけ観覧者に感じてもらえる工夫をした。

(4) 収蔵資料展

「磐越自動車道の遺跡ー会津盆地の弥生時代ー」
会 期:平成27年2月7日(土)～3月31日(火)
(開催日数44日間)

観覧者数:2,636名

1) 趣旨

会津地方の弥生時代に焦点を当て、磐越自動車道の建設に伴って発掘調査された遺跡の資料を中心に紹介した。

会津盆地では、近年の発掘調査により、弥生

番号	資料名	時代	所有者	備考
36	漁具 (ビク)	現代	大熊町民俗伝承館	
37	漁具 (鰻ドウ)	現代	大熊町民俗伝承館	
38	縄文土器 (晩期)	縄文	大熊町民俗伝承館	道平遺跡出土品
39	縄文土器 (晩期)	縄文	大熊町民俗伝承館	道平遺跡出土品
40	須恵器大甕	古墳	双葉町歴史民俗資料館	清戸迫63号横穴出土品
41	須恵器短頸壺	古墳～	双葉町歴史民俗資料館	清戸迫3号横穴出土品
42	須恵器はそう	古墳	双葉町歴史民俗資料館	清戸迫30号横穴出土品
43	土師器杯	古墳	双葉町歴史民俗資料館	清戸迫60号横穴出土品
44	勾 玉 (7点)	古墳	双葉町歴史民俗資料館	清戸迫38号横穴出土品
45	須恵器壺	古墳	双葉町歴史民俗資料館	沼ノ沢3号墳出土品
46	耳飾り・玉類	古墳	双葉町歴史民俗資料館	沼ノ沢3号墳出土品
47	大 刀	古墳	大熊町民俗伝承館	長者原横穴出土品
48	鉄 斧	古墳	大熊町民俗伝承館	長者原横穴出土品
49	軒丸瓦	奈良	富岡町歴史民俗資料館	小浜代遺跡出土品
50	丸 瓦	奈良	富岡町歴史民俗資料館	小浜代遺跡出土品
51	軒丸瓦	奈良	双葉町歴史民俗資料館	郡山五番遺跡出土品
50	丸瓦	奈良	富岡町歴史民俗資料館	小浜代遺跡出土品
51	軒丸瓦	奈良	双葉町歴史民俗資料館	郡山五番遺跡出土品
52	軒丸瓦	平安	双葉町歴史民俗資料館	郡山五番遺跡出土品
53	軒丸瓦	平安	双葉町歴史民俗資料館	郡山五番遺跡出土品
54	軒平瓦	奈良	富岡町歴史民俗資料館	小浜代遺跡出土品
55	軒平瓦	奈良	富岡町歴史民俗資料館	小浜代遺跡出土品
56	丸瓦	奈良～平安	双葉町歴史民俗資料館	郡山五番遺跡出土品
57	平 瓦	奈良～平安	双葉町歴史民俗資料館	へら書き「本」
58	行司道具	近代	双葉町歴史民俗資料館	軍配・扇
59	化粧回し	近代	双葉町歴史民俗資料館	「桂川」
60	化粧回し	近代	双葉町歴史民俗資料館	「白濱」
61	算額 (複製品)	現代	富岡町歴史民俗資料館	
62	算額 (複製品)	現代	富岡町歴史民俗資料館	
63	下郡山文書	近世	富岡町歴史民俗資料館	「延享四年皆済目録」
64	桑抜き	近代	大熊町民俗伝承館	
65	桑かご	近代	大熊町民俗伝承館	
66	ワラダ	近代	大熊町民俗伝承館	
67	回転まぶし	近代	大熊町民俗伝承館	
68	糸車	近代	大熊町民俗伝承館	

時代の生活や墓制、他地域との交流に関して、多くの新知見が得られている。

展示では、会津盆地における弥生文化の展開とその背景について、土器と道具及び墓制の変化に注目して紹介した。

2) 展示の構成と内容

①はじめに

磐越自動車道と弥生時代の概要を紹介した。

②磐越自動車道の遺跡

会津若松市屋敷遺跡・和泉遺跡、会津坂下町能登遺跡の弥生土器を展示し、文字パネルや写真パネルで遺跡の性格などを解説した。

③道具からみた生活の変化

湯川村桜町遺跡を中心に土器と石器を展示し、縄文文化の伝統を強く残していた道具が、後期後半に北陸地方からの影響を受けて変化することを紹介した。また、桜町遺跡出土の木製品（平鍬・掘り棒・梯子・建築部材）を、期間を限定し、展示替えしながら紹介した。

④墓の変化

弥生時代の墓の種類と、周溝墓から古墳への変遷を示したパネルを展示し、墓制の変化を紹介した。さらに、会津若松市会津大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡（複製品）とその鋳型（復元品）を展示して、新たな時代への変化を解説した。

⑤おわりに

3) 成果と反省

会津盆地の弥生文化を解説することで、教科書に記載された全国的な歴史像とは必ずしも一致しない地域文化に対する理解が深められる機会となった、と考えている。



「磐越自動車道の遺跡－会津盆地の弥生時代－」

「磐越自動車道の遺跡－会津盆地の弥生時代－」 展示資料一覧

番号	資料名	時代	遺跡名
1～7	弥生土器壺	弥生時代	能登遺跡
8～11	弥生土器甕	弥生時代	能登遺跡
12～16	弥生土器蓋	弥生時代	能登遺跡
17～18	弥生土器底部	弥生時代	能登遺跡
19～20	石鏃	弥生時代	能登遺跡
21～22	石錐	弥生時代	能登遺跡
23	石匙	弥生時代	能登遺跡
24～26	打製石斧	弥生時代	能登遺跡
27	磨製石斧	弥生時代	能登遺跡
28～29	磨石・凹石	弥生時代	能登遺跡
30	紡錘車	弥生時代	能登遺跡
31	独鈷石	弥生時代	能登遺跡
32～34	弥生土器壺	弥生時代	屋敷遺跡
35	弥生土器甕	弥生時代	屋敷遺跡
36	弥生土器注口	弥生時代	屋敷遺跡
37～38	弥生土器壺	弥生時代	和泉遺跡
39～42	弥生土器深鉢	弥生時代	和泉遺跡
43～44	弥生土器甕	弥生時代	和泉遺跡
45	弥生土器浅鉢	弥生時代	和泉遺跡
46	弥生土器注口	弥生時代	和泉遺跡
47	石鏃	弥生時代	横沼西遺跡
48～51	弥生土器壺	弥生時代	一ノ堰B遺跡
52～54	弥生土器鉢	弥生時代	一ノ堰B遺跡
55	弥生土器蓋	弥生時代	一ノ堰B遺跡
56～58	弥生土器朱彩土器	弥生時代	一ノ堰B遺跡
59～60	管玉	弥生時代	一ノ堰B遺跡
61～66	勾玉	弥生時代	一ノ堰B遺跡
67～75	弥生土器壺	弥生時代	桜町遺跡
76～78	弥生土器甕	弥生時代	桜町遺跡
79～81	弥生土器高坏	弥生時代	桜町遺跡
82～83	石鏃	弥生時代	桜町遺跡
84	紡錘車	弥生時代	桜町遺跡
85	木製品細鍬 (展示期間2/7～3/8)	弥生時代	桜町遺跡
86	木製品掘り棒 (展示期間3/10～4/5)	弥生時代	桜町遺跡
87	木製品梯子 (展示期間4/7～5/10)	弥生時代	桜町遺跡
88	木製品建築部材 (展示期間4/7～5/10)	弥生時代	桜町遺跡
89	石庖丁	弥生時代	高田遺跡
90	三角縁神獣鏡（複製品）	古墳時代	会津大塚山古墳
91	鏡鋳型（復元品）		
92	弥生時代の服（復元品）		

3. 講演会等

(1) 館長講演会

平成26年度は、シリーズ「はじめての考古学Ⅰー考古学者は遺跡を読むー」というテーマで、5回の館長講演会を開催した。

- ・平成26年5月17日（土）第1回「考古学ってなんだろう」32名
- ・平成26年7月20日（日）第2回「遺跡の発掘現場に立って」40名
- ・平成26年9月20日（土）第3回「出土遺物を観察する」25名
- ・平成26年11月15日（土）第4回「考古学の研究室で」25名
- ・平成27年1月17日（土）第5回「考古学を楽しむ」36名

(2) 文化財講演会

企画展などとタイアップして、今年度は以下の講演会を実施した。

①「近世大堀相馬焼の編年と流通」をテーマとして、弘前大学人文学部教授である関根達人氏が講演を行った。

- ・実施日：平成26年6月14日（土）37名

②「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」をテーマとして、青森県教育庁文化財保護課長である岡田康博氏の講演と、岡田氏・菊池館長の対談を行った。

- ・実施日：平成26年7月19日（土）

- ・参加者：55名

③「考古学の魅力ーエジプト考古学の最前線ー」をテーマとして、早稲田大学文学学術院教授である近藤二郎氏が講演を行った。



「考古学の魅力ーエジプト考古学の最前線ー」

- ・実施日：平成26年10月18日（土）53名

④「被災文化財の救出と保全」をテーマとして、陸前高田市立博物館副主幹・学芸員である熊谷賢氏が講演を行った。

- ・実施日：平成26年11月8日（土）25名

⑤「古墳時代の白河」をテーマとして、白河市建設部都市政策室文化財保護課主査である鈴木一寿氏が講演を行った。

- ・実施日：平成26年12月13日（土）40名

⑥「放射能汚染と東北の自然」というテーマで、東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授である田口洋美氏が講演を行った。

- ・実施日：平成27年2月7日（土）28名

(3) 文化財講座

「会津地方の縄文時代」というテーマで、福島県文化センター歴史資料課長である芳賀英一氏が講座を実施した。

- ・実施日：平成26年8月23日（土）40名

文化財講演会実施状況

名 称	講 師	実 施 日	受講者数	場 所
第1回「考古学ってなんだろう」	菊池徹夫館長	5月17日	32名	まほろん講堂
第2回「遺跡の発掘現場に立って」	菊池徹夫館長	7月20日	40名	まほろん講堂
第3回「出土遺物を観察する」	菊池徹夫館長	9月20日	25名	まほろん講堂
第4回「考古学の研究室で」	菊池徹夫館長	11月15日	25名	まほろん講堂
第5回「考古学を楽しむ」	菊池徹夫館長	1月17日	36名	まほろん講堂
I「近世大堀相馬焼の編年と流通」	関根達人（弘前大学人文学部教授）	6月14日	37名	まほろん講堂
II「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」	岡田康博（青森県教育庁参事兼文化財保護課長）	7月19日	55名	まほろん講堂
III「考古学の魅力ーエジプト考古学の最前線ー」	近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授）	10月18日	53名	まほろん講堂
IV「被災文化財の救出と保全」	熊谷 賢（陸前高田市立博物館副主幹・学芸員）	11月8日	25名	まほろん講堂
V「古墳時代の白河」	鈴木一寿（白河市建設部都市政策室文化財保護課主査）	12月13日	40名	まほろん講堂
VI「放射能汚染と東北の自然」	田口洋美（東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授）	2月7日	28名	まほろん講堂
講座「会津地方の縄文時代」	芳賀英一（福島県文化センター歴史資料課長）	8月23日	40名	まほろん講堂
ビデオ上映会「3・11東日本大震災を乗り越えて」		2月28日	15名	まほろん講堂

(4) 文化財に関する上映会

文化財に関する上映会は、文化財記録DVDの上映を実施した。

「3・11東日本大震災を乗り越えて—いわて・みやぎ沿岸部の民俗芸能 復興と現状—」

・実施日：平成27年2月28日（土）15名

4. 体験学習

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

個人来館者を対象とし、体験活動室で実施する体験学習メニューである。

平成25年度までの実施状況を踏まえて、季節や当館の行事予定を考慮して年間計画を作成した。通年体験できる「勾玉・管玉づくり」や「火おこしに挑戦しよう」に加え、概ね2週間で入れ替わる13種類の期間限定メニューを実施した。期間限定メニューの内、「オリジナルキーホルダーをつくろう」、「網代編みに挑戦しよう」、「装飾壁画に挑戦しよう」、「土偶・土面をつくろう」は今年度新たに加わったメニューである。

平成26年度の体験者数は7,878人で、前年度の体験者数よりも108人減少した。

体験活動室メニューの実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
勾玉づくり	2,106名	ガラス玉をつくろう	229名
管玉づくり	26名	組みひもをつくろう	101名
火おこしに挑戦しよう	3,566名	七夕かざりをつくろう	95名
切り絵に挑戦しよう	195名	網代編みに挑戦しよう	32名
ミニチュア土器・埴輪をつくろう	134名	土偶・土面をつくろう	157名
時代衣装を着てみよう	713名	装飾壁画に挑戦しよう	37名
オリジナルキーホルダーをつくろう	207名	匂い袋をつくろう	74名
		昔の遊び	175名
		紙でつるし雛を折ろう	31名



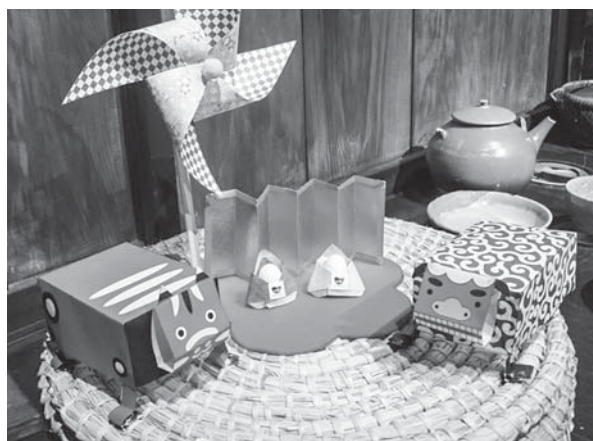
「オリジナルキーホルダーをつくろう」

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

小中学校の夏休み期間、まほろんイベントの実施日、特別展示期間において、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応体験メニューの実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
弓矢・やり投げ体験	1,562名	缶バッチづくり	270名
紙かぶとをつくろう	198名	昔のお菓子をつくろう	592名
バックヤードツアー	645名	銀さがし体験	39名
カラムシでアクセサリをつくろう	171名	紙細工をつくろう	201名
縄文クッキーを焼いてみよう	50名	たこづくり体験	95名



「紙細工をつくろう」

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、火おこし、土器さわりなど9メニューを実施した。また、条件付きで、体験活動室メニューを団体来館者対応の体験メニューで実施した。

団体来館者対応の体験メニュー実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
勾玉づくり	3,278名	時代衣装	21名
管玉づくり	66名	拓本	27名
火おこしに挑戦しよう	3,775名	昔の遊び	64名
アンギン編み	20名	昔の道具	1,426名
土器さわり	2,687名	体験活動室メニュー	288名

(2) 募集型体験学習メニュー

1) 実技講座

昔のさまざまな“モノづくり”を体験することで、文化財に対する理解を深めることを目的として、平成26年度は15講座（全21回）を実施した。実技講座の名称、日程、参加者数は別表のとおりである。

「大堀相馬焼をつくろう」、「古代の染色にちょうせん」、「古代の印章をつくろう」「縄文土器づくり上級編」については、定員を上回る申し込みがあった。

実技講座実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	土器づくり初級編①	5月11日	15名
2	大堀相馬焼をつくろう①	5月25日	17名
3	大堀相馬焼をつくろう②	6月15日	17名
4	土器づくり初級編②	6月22日	13名
5	カラムシから布をつくろう①	6月28日	5名
6	カラムシから布をつくろう②	7月12日	7名
7	縄文ポシェットをつくろう	8月2日	7名
8	古代の染色にちょうせん	8月9日	17名
9	カラムシから布をつくろう③	8月30日	5名
10	鹿の角で装飾品をつくろう	9月14日	7名
11	勾玉づくり上級編	10月5日	5名
12	埴輪づくり①	10月19日	4名
13	ひょうたんから容器をつくろう	11月9日	9名
14	埴輪づくり②	11月23日	2名
15	古代の印章をつくろう	11月30日	18名
16	家族で門松をつくろう	12月21日	23名
17	古代の鏡をつくろう	1月25日	11名
18	縄文土器づくり上級編①	1月31日	11名
19	縄文土器づくり上級編②	2月1日	11名
20	ガラスと組紐でアクセサリーをつくろう	2月22日	12名
21	縄文土器づくり上級編③	3月7日	11名



「縄文ポシェットをつくろう」

2) まほろんイベント

当館の業務と魅力を広く県民に伝え、利用者層の幅を広げることを目的として、平成26年度は7回実施した。まほろんイベントの名称、日程、参加者数は別表のとおりである。

まほろんイベント実施状況

	イベント名	実施日	参加者数
1	GWまほろんまつり	5月3日～6日	1,486名
2	まほろん夏まつり	7月27日	268名
3	まほろんを描こう	9月13～15日	43名
4	まほろん秋まつり	11月3日	476名
5	もちつき大会	12月7日	331名
6	第11回双六大会	1月18日	28名
7	まほろん冬まつり	2月15日	400名

「第11回双六大会」については、定員を上回る参加者があった。



「第11回 双六大会」

3) まほろん森の塾

塾生（小学4～6年生、中学生から募集）が、年間を通じて昔の暮らし・技術について体験することで、自らが生きる力を身につけることを目的として実施した。

平成26年度は8名が登録、「縄文のムラを探検してみよう」をメインテーマとして、縄文食体験・遺跡見学・学習発表会など、5回にわたって実施した。

まほろん森の塾の実施状況

	講座名	実施日	参加者数
第1回	白河市内小学校の運動会と重なったため中止	5月17日	0名
第2回	結団式・オリエンテーション・縄文食体験	6月14日	7名
第3回	縄文のムラを調べてみよう	7月12日	7名
第4回	縄文のムラを探検してみよう	9月6日	7名
第5回	縄文のムラ探検発表会資料作成	10月11日	7名
第6回	縄文のムラ探検発表会・解団式	12月13日	7名

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とし、当館職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて施設へ出向き(ただし、「ネットでまほろん」を除く)、地域の歴史を伝え、体験活動を行なうものである。体験活動を実施したメニューは、勾玉づくり、火おこし体験、弓矢体験、土器さわり体験、時代衣装体験などである。

以下、本事業の各プログラムの概要と平成26年度の成果について述べる。

おでかけまほろん

NO.	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	人数
1	会津坂下町立坂下南小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月11日(金)	81名
2	須賀川市立阿武隈小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月16日(水)	75名
3	いわき市立平第一小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	4月17日(木)	78名
4	南会津町立館岩小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月23日(水)	17名
5	郡山市立根本屋小学校	小1～6年、社会	土器さわり・弓矢	4月24日(木)	43名
6	須賀川市立稲田小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月28日(月)	27名
7	須賀川市立大森小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢など	5月1日(木)	24名
8	川俣町立福田小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月2日(金)	23名
9	喜多方市立駒形小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり・弓矢	5月8日(木)	10名
10	本宮市立糠沢小学校	小6年、社会	勾玉・火おこしなど	5月9日(金)	30名
11	本宮市立岩根小学校	小6年、総合・社会	火おこし・弓矢	5月13日(火)	47名
12	田村市立西向小学校	小6年、社会	勾玉・弓矢	5月21日(水)	12名
13	矢祭町立石井小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	5月22日(木)	13名
14	いわき市立湯本第二小学校	小6年、総合・社会	勾玉・火おこし	5月28日(水)	24名
15	田村市立船引小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	5月29日(木)	112名
16	二本松市立旭小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月3日(火)	10名
17	福島県立豊学校福島分校	小4～6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月5日(木)	9名
18	いわき市立藤間中学校	中1年、社会	勾玉	6月11日(水)	37名
19	田村市立美山小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	6月13日(金)	13名
20	本宮市立白岩小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月17日(火)	32名
21	二本松市立石井小学校	小6年、社会	土器・管玉	6月18日(水)	31名
22	塙町立塙小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	6月19日(木)	44名
23	猪苗代町立緑小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	6月25日(水)	12名
24	福島県立豊学校会津分校	小2・4・6年、社会	弓矢など	6月27日(金)	3名
25	石川町立母畑小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	7月2日(水)	8名
26	田村市立菅谷小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	7月4日(金)	20名
27	伊達市立上保原小学校	小6年、総合・社会	勾玉・土器さわり	7月8日(火)	32名
28	いわき市立上遠野小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり・弓矢	7月10日(木)	33名
29	郡山市立喜久田小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこしなど	9月2日(火)	50名
30	伊達市立堰本小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢など	9月3日(水)	35名
31	棚倉町立近津小学校	小6年、社会	火おこし	9月12日(金)	18名
32	二本松市立原瀬小学校	小6年、社会	勾玉・火おこし・弓矢	9月17日(水)	15名
33	浅川町立浅川小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	9月19日(金)	61名
34	福島県立須賀川養護学校医大分校	小1～6年、中1～3年、社会	土器さわり・火おこし	9月26日(金)	11名
35	三春町立中妻小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	10月1日(水)	27名
36	伊達市立大石小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	10月10日(金)	8名
37	二本松市立新殿小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	10月22日(水)	16名
38	二本松市立油井小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	11月5日(水)	58名
39	いわき市立夏井小学校	小6年、総合・社会	火おこしなど	11月7日(金)	12名
40	川俣町立川俣南小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	11月13日(木)	31名
41	矢祭町立内川・関岡小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	11月19日(水)	11名
42	いわき市立川部小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢など	11月28日(金)	22名
43	福島県立須賀川養護学校	小6年、中1～3年、社会・総合	土器さわり・弓矢・時代衣裳	12月2日(火)	12名
44	福島県立あぶくま養護学校	中2・3年、社会	土器さわり・弓矢	12月5日(金)	39名

まほろん出前講座

NO.	団体名	年齢	内 容	実施日	人数
1	福島市杉妻学習センター	小4～6	勾玉・土器さわり・弓矢	6月21日(土)	46名
2	柳津町中央公民館	小学生・一般	勾玉・土器さわり・拓本	7月24日(木)	46名
3	須賀川市中央公民館	小1～6	勾玉	8月2日(土)	20名
4	鏡石町公民館	小3～6	土器さわり・火おこし・弓矢	10月18日(土)	45名
5	国立那須甲子青少年自然の家	小学生・一般	埴輪づくり・組紐づくり	12月27日(土)	16名

まるごとまほろん

NO.	団体名	年齢	内 容	実施日	人数
1	国立那須甲子青少年自然の家	小学生・一般	輪ゴム鉄砲	10月5日(日)	241名
2	大玉村あだたらふるさとホール	小学生・一般	缶バッチづくり・弓矢	10月25・26日(土・日)	191名
3	国立磐梯青少年交流の家	小学生・一般	弓矢	10月26日(日)	102名
4	那須高原ビジターセンター	小学生・一般	弓矢	11月9日(日)	213名
5	工房アミーコ	一般	土器づくり・勾玉	3月25日(水)	28名

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、本年度は前掲の44箇所（45校）で実施した。

学校の先生と当館職員が協力して授業を行い、学校周辺の歴史や古代の人々の暮らしや、知恵・技術を学ぶ体験活動を行うものである。



おでかけまほろん「土器さわり体験」

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子供クラブ」や「高齢者学級」などを対象としたプログラムである。本年度は、福島市・須賀川市・鏡石町・西郷村・柳津町の5箇所で実施した。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象として、当館が収蔵する考古資料の展示や体験学習などを行うプログラムである。本年度は、国立那須甲子青少年自然の家や国立磐梯青少年交流の家、大玉村あだたらふるさとホールなどが主催した5箇所のイベントに参加した。



まるごとまほろん「磐梯青少年交流の家」

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や障がい者を有しているため来館での活動が困難な学校を対象としたプログラムで、当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行うものであるが、本年度は申し込みがなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

月間及び年間のアクセス数は、下表のとおりである。

年間総アクセス数は42,139件で、昨年度よりも1,856件（4.2%）の減少となったが、平成24年度以降4万件台で推移している。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,075	541,346
5月	3,908	545,254
6月	3,632	548,886
7月	3,890	552,776
8月	3,974	556,750
9月	3,138	559,888
10月	3,321	563,209
11月	3,278	566,487
12月	2,614	569,101
1月	3,569	572,670
2月	3,379	576,049
3月	3,361	579,410
合計	42,139	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成26年度のアクセス数を別表に示した。文化財データベースの年間アクセス数は805,184件で、前年度の631,342件を上回り、過去最高となった。前年度からの急激なアクセス数の増加については、東日本大震災の復興関連事業の急増等により、遺跡や遺物等の埋蔵文化財情報へのニーズが急増した可能性が考えられる。

内訳で見ると、遺跡と遺物の各データベースがそれぞれ31万件、36万件を超えるアクセスがあり、写真と文献の各データベースについても、ほぼ年間を通じて数千件以上のアクセス数があった。

月別のアクセス数の推移を見ると、4～7月

は前年度を大きく上回るアクセスがあったものの、8月以降は前年度を下回る月も出始め、1～3月には、逆に前年度を大きく下回っている。こうしたアクセス数の推移が、復興関連事業の動向に影響されたものかは定かでないが、平成25年夏頃から26年秋頃にかけて、通常のデータベース利用者とは異なる利用が集中していた可能性が考えられる。

データベースアクセス数一覧

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	100,271	43,575	40,348	7,249	9,099
5月	73,730	31,080	30,595	5,830	6,225
6月	100,960	36,181	46,771	10,232	7,776
7月	71,125	25,987	35,072	4,571	5,495
8月	71,315	22,806	37,454	4,953	6,102
9月	70,077	24,428	35,440	4,996	5,213
10月	63,125	22,347	31,224	4,816	4,738
11月	69,956	25,349	34,791	4,762	5,054
12月	60,824	20,735	29,090	5,311	5,688
1月	54,475	26,195	20,043	3,030	5,207
2月	51,776	30,981	12,587	4,198	4,010
3月	17,550	6,648	6,739	1,543	2,620
合計	805,184	316,312	360,154	61,491	67,227

(2) データの入力

新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は721件である。

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計
遺跡(基本データ)	0		13,841
遺跡(調査台帳)	0		4,416
遺物	0	1	253,073
遺物写真	0		20,245
写真	0		56,142
文献	721	2	18,225
合 計	721	3	365,942

3. まほろん通信の発行

平成26年度は、年4回発行した。発行日は、4月15日、7月1日、10月1日、1月15日で、各号4,000部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

(1) まほろん通信vol.51(4月15日発行)

- ・入館者40万人セレモニー
- ・体験学習(実技講座「縄文土器づくり上級編」、実技講座「ガラスと組紐でアクセサリをつ

くろう)」

- ・企画展示案内(ふくしま復興展「発掘された大堀相馬焼」)
- ・平成26年度館長講演会のご案内
- ・平成25年度の入館者数
- ・まほろんからのお知らせ(5月のまほろんイベント)
- ・今年度の行事予定

(2) まほろん通信vol.52(7月1日発行)

- ・まほろんイベント「GWまほろんまつり」
- ・体験学習(実技講座「土器づくり初級編(全2回)」、実技講座「大堀相馬焼をつくろう(全2回)」)
- ・文化財研修・講演会(文化財講演会Ⅰ「近世大堀相馬焼の編年と流通」、7～9月の文化財研修・講演会のご案内)
- ・企画展示案内(指定文化財展「法正尻遺跡と特別史跡三内丸山遺跡」)
- ・夏のまほろん(まほろんイベント「まほろん夏まつり」、夏休み特別体験メニュー)
- ・活動室から(新メニューについて)
- ・シリーズ収蔵品紹介18(高堂太遺跡出土の青銅製提子)
- ・まほろんからのお知らせ

(3) まほろん通信vol.53(10月1日発行)

- ・「第14期 まほろん森の塾」
- ・体験学習(実技講座「縄文ポシェットをつくろう」、実技講座「古代の染色にちょうせん」、実技講座「鹿の角で装飾品をつくろう」)
- ・館外学習支援(本年度のおでかけまほろん)
- ・企画展示案内(被災文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」)
- ・文化財講演会(文化財講演会Ⅱ「特別史跡三内丸山遺跡と世界遺産」)
- ・研修だより(文化財研修「教職員等発掘調査体験研修」)
- ・まほろんイベント(「まほろんを描こう」)
- ・シリーズ収蔵品紹介19(いわき市大猿田遺跡出土の木簡)
- ・まほろんからのお知らせ(今後のまほろんイベント)

- (4) まほろん通信vol.54 (1月15日発行)
- ・実技講座「家族で門松をつくろう」
 - ・体験学習(実技講座「勾玉づくり上級編」、実技講座「埴輪づくり」)
 - ・企画展示案内(収蔵資料展「磐越自動車道の遺跡—会津盆地の弥生時代—」)
 - ・まほろんイベント(「まほろん秋まつり」、「まほろんもちつき大会」)
 - ・文化財講演会(「ふるさとを守るために～陸前高田市における文化財レスキュー～」)
 - ・研修だより(10月～12月の研修の様子と、今後の研修)
 - ・文化財の保管と展示(被災文化財復興展が閉幕)
 - ・まほろんからのお知らせ(各種実技講座、受講者募集!)

6 文化財に関する研修事業

1. 研修事業の概要

平成26年度の研修は、期日指定の基礎研修5回、専門研修5回、臨時的研修6回の合計16回を実施した。研修を実施した日数は述べ19日、研修の参加者は494人である。

2. 研修実施状況

平成26年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。

最も参加の多かったのは市町村等で文化財の保護に携わる職員で、208人と全体の72%を占

めている。教職員の参加者は13人で5%、一般公務員が3人で1%、文化財関係の市民ボランティアは9人で3%、その他一般人・学生が54人で19%であった。

(1) 基礎研修

文化財保護・活用基礎研修などを5回実施した。

「文化財保護・活用基礎研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる基礎知識についての研修である。今年度は、当館における資料の保管状況や管理法について、当館学芸員が解説した。

「考古資料研修」は、まほろんに収蔵されている指標的な資料をもとに、各時代の基礎知識を学ぶ講座である。今回は当館学芸課長が、縄文時代中期末葉から後期前葉の土器群を取り上げ、土器型式の考え方について講義した。



考古資料研修

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護・活用基礎研修 「ゼロからはじめる資料管理」	山本友紀(当館学芸員)	5月24日	20名	館内
	考古資料研修 「縄文時代の基礎知識」	本間宏(当館学芸課長)	7月5日	23名	館内
	教職員等発掘調査体験研修	佐藤啓(当館主任学芸員) 和田伸哉(当館学芸員)	8月5日～7日	のべ12名	広野町・いわき市
	無形の文化財研修 「民俗技術の保護と活用」	大山孝正(当館主任学芸員)	11月22日	9名	館内
	地方史研修 「住民をつなぐ文化財」	吉野高光(双葉町教育委員会)	2月21日	3名	いわき市
専門研修	文化財保護・活用専門研修Ⅰ 「資料保存における監視・評価の実践的方法」	佐野千絵(東京文化財研究所保存修復科学センター)	6月21日	20名	館内
	文化財保護指導者研修会	松岡誠一(仏像文化財修復工房) 齋藤義弘(福島市教育委員会)ほか	9月3・4日	のべ150名	福島市
	文化財と関連科学 「考古遺物の年代測定」	吉田邦夫(東京大学総合研究博物館)	10月25日	24名	館内
	考古学専門研修 「過去の災害と調査法」	斎野裕彦(仙台市教育委員会)	12月21日	14名	館内
	文化財保護・活用専門研修Ⅱ 「救出された文化財の保護と活用」	丹野隆明(福島県教育庁文化財課)	1月24日	12名	館内
	臨時館内研修 「ミニチュアはにわづくり」	当館職員	12月9日	19名	館内
特別研修	職員派遣研修 福島県立図書館 「ふくしまを知る連続講座」	当館職員	8月31日	62名	福島市
	職員派遣研修 大安場史跡公園 「東日本大震災と文化財保護」	当館職員	9月14日	25名	郡山市
	職員派遣研修 相馬市生涯学習会館 「発掘された大堀相馬焼」	当館職員	9月27日	22名	相馬市
	職員派遣研修 平田村農業改善センター 「発掘調査から見た平田村」	当館職員	1月27日	44名	平田村
	職員派遣研修 塙町公民館 「白河関と塙町の歴史を語る」	当館職員	2月19日	35名	塙町

「教職員等発掘調査体験研修」は、主に教職員を対象に、学校の夏休み期間に開催しているもので、今回は、広野町宮田条里遺跡の発掘調査現場を会場とした。講師は当館職員が務め、発掘調査の実習を行ったほか、周辺の発掘調査や現地資料館の見学を実施した。

「無形の文化財研修」は、無形の文化財の基礎知識と調査方法を学ぶ研修である。本年度は、当館職員が、民俗技術の記録保存における留意点と、映像記録の検証に実験的な追体験の学習を補完する手法が紹介された。

「地方史研修」は、県内各地の地方史を検討する手法を学ぶ研修である。今回は、いわき市を会場とし、双葉町教育委員会の吉野高光氏が、震災後の地域史料保護活動や、コミュニティー維持に果たす文化財の役割について講義を行った。

（２）専門研修

文化財保護・活用専門研修など、５回を実施した。

「文化財保護・活用専門研修Ⅰ」は、文化財の保護や活用に必要な専門的知識・技能を習得することを目的とした研修である。本年度は、東京文化財研究所の佐野千絵氏が、資料保存におけるデータの評価法と、環境変化への対応策などについて講義を行った。

「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員等を対象として毎年会場を変えて行う研修会である。今回は福島市の施設と遺跡を会場として、仏像文化財修復工房の松岡誠一氏の講演、福島市教育委員会の齋藤義弘氏の事例報告、福島県教育庁文化財課の佐藤耕三



文化財専門研修

氏の講義を行い、福島県歴史資料館や宮畑遺跡史跡公園の見学を実施した。

「考古学と関連科学研修」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。東京大学総合研究博物館の吉田邦夫氏が、放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析について講義を行った。

「考古学専門研修」は、最新の研究情報から専門的知識を深める研修である。本年度は、仙台市教育委員会の斎野裕彦氏が、仙台湾における地震・津波痕跡と集落の動態を、災害研究に果たす考古学の役割について解説した。

「文化財保護・活用専門研修Ⅱ」は、双葉郡をはじめとする文化財レスキューの現状と課題について、福島県教育庁文化財課の丹野隆明氏を講師として実施した。震災後の諸活動における福島県の取り組みと全国からの支援活動を紹介し、今後の問題点について解説した。

（３）臨時的研修

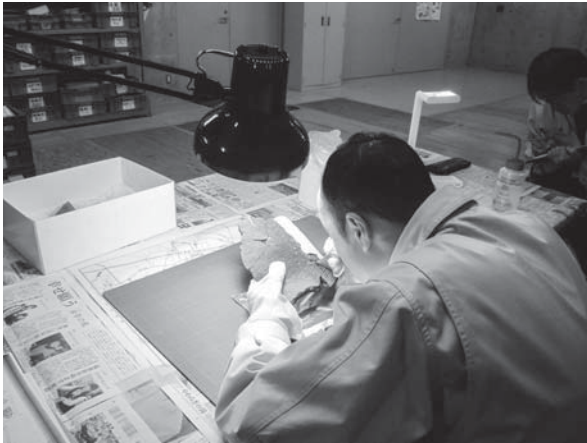
上記の研修のほか、研修開催の要望に応えた特別研修として、臨時館内研修１件・職員派遣研修５件を実施した。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 放射性炭素年代測定

福島県文化財センター白河館に収蔵されている土器に付着した炭化物について、加速器質量分析による放射性炭素年代測定を実施して、その年代的位置を明らかにし、測定年代の補正に必要な炭素・窒素安定同位体比分析も実施する事業である。これにより、炭化物の成因となった食料資源も明らかになることから、福島県の「食」の変遷に関する新たな歴史像と、出土文化財が保有する情報の多様性・重要性を県民に伝えるための基礎データとすることを目的としている。

分析は、平成26年度から平成30年度までの５箇年度継続して行うこととした。また、分析試料の採取方法、前処理の技術、分析機器の違いによる誤差発生リスクを回避し、分析結果に対する評価基準を統一させるため、同一の機関に委託して実施することとした。



放射性炭素年代測定

平成26年度は、福島県文化財センター白河館に収蔵されている縄文時代早期後半から前期初頭の土器20点について、付着炭化物の分析を実施した。その結果については、「福島県文化財センター白河館研究紀要2015」に掲載予定である。また、県内の発掘調査報告書等に収録された年代測定結果について集成を行い「福島県文化財センター白河館研究紀要2014」に掲載した。

2. 研究紀要

専門職員が行う館業務の過程での研究や、収蔵資料等に関する調査研究の成果を、「研究紀要2014」に掲載し、発行した。

8 ボランティア運営事業

1. 募集

第3期の指定管理者選定の後、新しい「まほろんボランティア」の募集を行った。(募集期間：平成26年2月1日～3月16日)

申し込み資格は、①平成26年4月1日現在で18歳以上(高校生は除く)、②無償で活動できる方、③毎月2日間以上(1日2時間程度)活動できる方とした。

2. 登録

登録するボランティアの名称を「まほろんボランティア」と呼び、登録形態は個人登録ボランティアとした。

個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成26年度登録者数	20名 (男性10名・女性10名)
内訳	
1. 最年長	86歳
2. 最年少	25歳
3. 平均年齢	66歳(男69歳、女64歳) (平成27年3月31日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(餅つき大会等)の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- アンギン編み

4. 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、4月13日(日)、10月4日(土)、3月28日(土)にまほろんボランティア連絡会を開催した。



ボランティアによる「まほろんオリエンテーリング」

9 その他

1. 年報2014の発行

当館の平成25年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関であり、会議を年2回開催している。

なお、平成26年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：前弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：前二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：前郡山女子大学准教授、再任
- ・和知 延：白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・新山 雄次：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任
- ・鈴木 且雪：西白河小中学校長連合協議会長、再任

（1）第1回運営協議会

日時：平成26年9月27日（土）

場所：会議室

議事

- ・平成25年度白河館の事業実績について
- ・平成26年度白河館の事業について
- ・平成25年度来館者アンケートの結果について
- ・その他

（2）第2回運営協議会

日時：平成27年3月14日（土）

場所：会議室

議事

- ・平成26年度白河館の運営状況について
- ・平成27年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館学学外実習

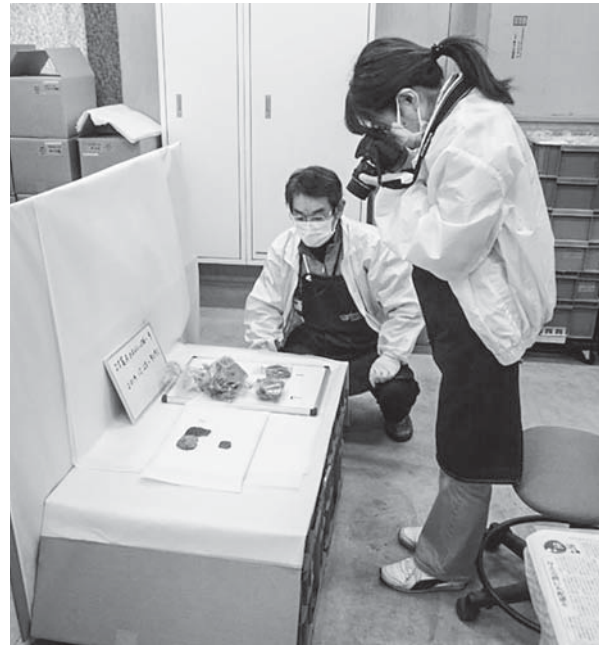
県内の大学生、県内出身の大学生を対象として博物館学学外実習を行った。

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

これは、原子力災害によって避難指示区域となっている双葉郡内の文化財等を、まほろん敷地内に設置された仮保管施設に移送し、整理・保全作業を行うものである。

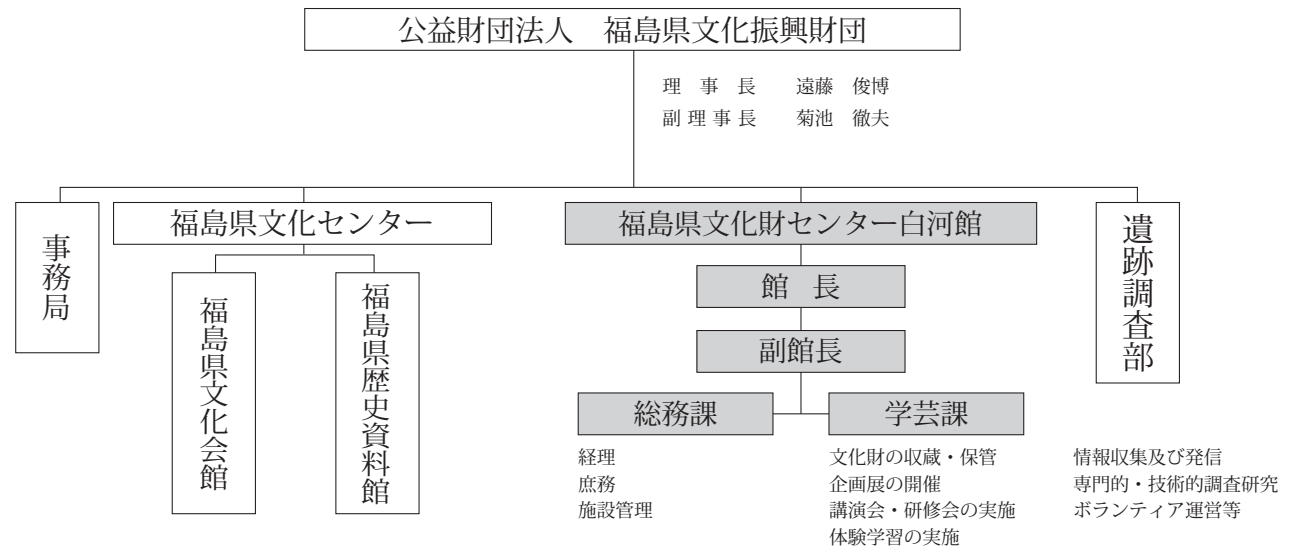
なお、福島県教育委員会では、仮保管施設を新たに2棟建設した。



被災ミュージアム再興事業

第3章 平成26年度の組織と管理運営費

1 組 織



在籍職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	菊 池 徹 夫	主任学芸員	國 井 秀 紀
副 館 長	野 川 清 和	主任学芸員	大 山 孝 正
総務課	課長（兼務）	主任学芸員	三 浦 武 司
	副 主 幹	主任学芸員	山 田 英 明
	主 査	学 芸 員	山 本 友 紀
	事務補助員	学 芸 員	和 田 伸 哉
	物品販売補助員	学 芸 員	柿 沼 梨 沙
学芸課	課 長	嘱 託	山 内 幹 夫
	主 幹	アテンダント	佐 藤 あかね
	副主幹兼専門学芸員	アテンダント	河 西 久 子
	専門学芸員	アテンダント	大 木 令 子
	専門学芸員	アテンダント	独 鈺 亜由美
	主任学芸員	アテンダント	高 木 茜 音
職員総数 25名			

(平成27年3月31日現在)

2 白河館管理運営費

・ 指定管理者委託料 240,114千円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台(うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換外線4回線(ISDN) 内線55回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

- ・空調方式
一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式
- ・熱源：都市ガス(ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流(最終桝でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流、
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

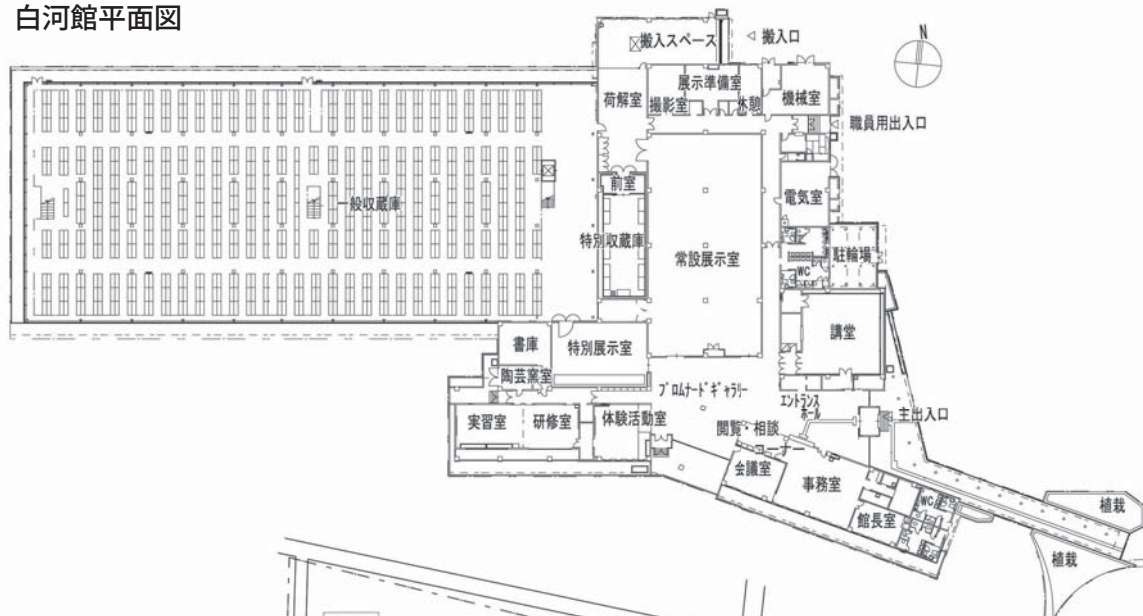
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

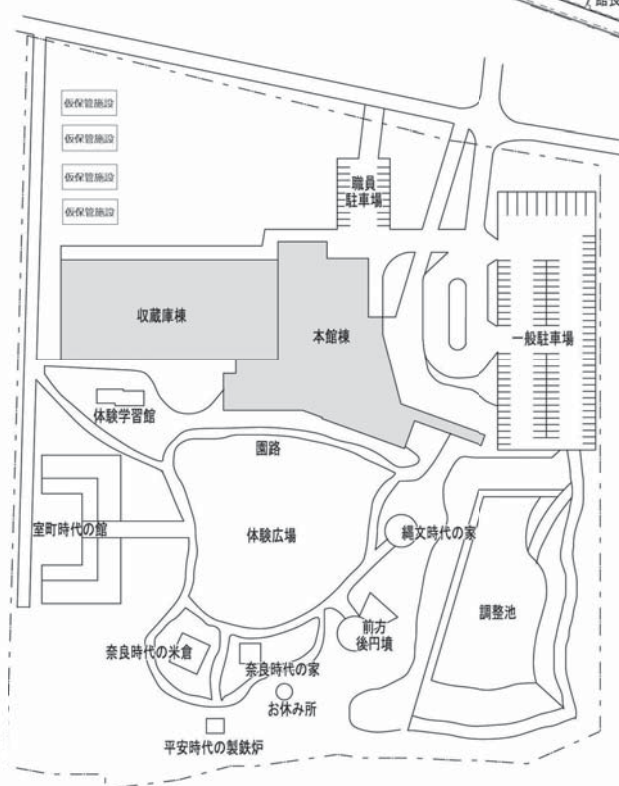
◎総建設費 3,300,625千円

- | | | |
|-----|---------|-------------|
| ・内訳 | 建築費 | 2,690,848千円 |
| | 公有財産購入費 | 222,095千円 |
| | その他の経費 | 387,682千円 |

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	776	4棟 (194㎡×4棟)

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(文化財等の特別利用)

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

開館時間 ・ 午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館
は午後 4 時 30 分まで）

休館日 ・毎週月曜日（国民の祝日の場合は
その翌日、GW・夏休み期間中は
開館）

- ・国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）

・年末年始（12月28日～1月4日）

入館料・無料

交通案内 ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまほろんバス停下車

- ・ J R 東北本線白河駅、 J R 東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂・白坂駅行き）まほろんバス下車

- ・ J R東北本線白河駅、 J R東北新幹線新白河駅から J Rバス（棚倉行き）南湖公園下車徒歩25分

- ・東北自動車道白河 I. C. から車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。

福島県文化財センター白河館

年報 2015

平成 27 年 9 月 25 日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fks.ed.jp>
